

# エグゼクティブサマリ

## 1. プリンター市場動向調査

### 1.1 2019年の市場実績

2019年のプリンター市場は、ワールドワイドトータルで9,851万台となった（前年比93%）。方式別では、ドットインパクトプリンター、インクジェットプリンターおよび電子写真プリンターの全ての方式で前年比マイナスとなった。

2019年のドットインパクトプリンター分野の市場実績は236万台となった。（前年比92%）最大市場である中国は2016年の税制改革に伴う需要増加の反動が2017年以降継続しており、対前年94%の160万台となった。

インクジェットプリンター分野の市場規模は6,351万台となった。（前年比95%）先進国地域は前年を下回る実績となり、3,630万台（同92%）、新興国地域も前年から微減となる、2,721万台（同99%）となった。

電子写真プリンター分野の市場実績は3,264万台となった。（前年比90%）2017年から続いた回復基調から反転し、世界経済における景気減速等の影響を受けた。先進国地域が1,353万台（同93%）、新興国地域が1,912万台（同88%）となった。

### 1.2 2022年までの見通し

2022年の全世界のドットインパクトプリンター市場は台数ベースで216万台（2019-2022年 年平均成長率 -2.9%）、インクジェットプリンター市場は5,862万台（同 -3.6%）、電子写真プリンター市場は、3,222万台（同 -0.4%）と見通した。

上記の各カテゴリーの合計として、2022年のプリンター市場は、ワールドワイドトータルで9,299万台（年平均成長率 -1.9%）になると予測した。

なお、本見通しは2019年末時点の出荷自主統計調査の結果を基礎データとして、中期的な市場の方向性を精査したものである。その後の新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の世界的感染拡大による影響で、2020年の全プリンター市場はおよそ前年比77%と大幅な減少を予測しており、21年以降は徐々に回復する見込みであるが、従来の市場成長率にまで戻るのは早くも2022年になるものと推測される。

また、COVID-19の世界的流行による今後の世界・地域経済への影響次第では、2022年の予測台数が大きく変わる可能性もあることについて付記しておく。

## 2. プリンター技術動向調査

電子写真プリンターの 2019 年の発売機種数（回答機種数）は、プリント・オン・デマンド（以降 POD と略す）用途のプリンター※を含まない数として、SFP（Single Function Printer）が 8 社 40 機種、MFP（Multi Function Printer）が 9 社 93 機種である。一方 POD は 4 社 16 機種（SFP：11 機種、MFP：5 機種）である。

※ プリント・オン・デマンド（Print On Demand）用途のプリンターとは、「プロダクション市場向け」「オンデマンド・パブリッシングシステム」「企業内プリンティングから商業印刷まで対応」等を銘打ったプリンターを意味する。

SFP は 2019 年 40 機種の発売で 2018 年から回復がみられた。2008 年の 69 機種をピークにその後徐々に減少したが、2012 年から 30 機種台が続き、2016 年、2017 年と 40 機種数台に回復したものの、2018 年に 20 機種と過去最少の機種数となっていた。2008 年の 69 機種からは、減少しているものの、長期的にみると 40 機種前後で推移しながら発売が続いている。（ただし、2007～2009 年までは POD を含んだ数値であるため、数字のみかけよりは減少幅は小さい。）

MFP は 2019 年 93 機種（POD 除く）の発売があった。毎年、非常に増減の変化が大きく、過去には 2015 年、2016 年のように 100 機種を超える年がある一方で、2017 年のように 50 機種を下回る年もあった。2007 年から 2019 年までの機種数は平均的には、約 90 機種前後であり 2019 年の発売機種数は例年並みとみられる。各メーカーで製品発売のタイミングにより、今後も年による増減は続くと思われる。

POD は 2019 年 16 機種の発売があった。2015 年以降、2018 年まで続いていた増加傾向は一旦途切れたが、2010 年からの平均機種数は 14 機種であるので、毎年増減はあるものの、例年並みの発売機種数とみられる。

インクジェットプリンターの 2019 年の国内発売機種数は、SFP が 4 社 14 機種、MFP が 4 社 35 機種、LFP（Large Format Printer）が 7 社 40 機種である。

SFP は、2018 年の機種数が 19 機種と多かったこともあり機種数は減少したが、2015 年頃から長期的にみると、2019 年の 15 機種は例年並みの機種数に見える。

MFP の機種数は年ごとの増減は繰り返されるものの、2013 年から長期的にはほぼ横ばいとみられ、2019 年も例年並みの機種数である。

SFP、MFP 共通の特徴としては、モノクロ専用機種や、CISS 機種、ラインヘッド搭載機種の発売があった。（CISS：Continuous Ink Supply System インク連続供給方式）

LFP は 2018 年が 50 機種と非常に多かったこともあり今年は減少した。それでも 40 機種というのは、2013 年からの長期的な傾向でみると増加傾向で発売されていることが分かる。



## プリンターの呼称について（解説）

本年度の報告書では、プリンターの呼称について下記のように用語の統一を図った。

プリンターの用語表記については、「JEITA IS-15-情端-7 プリンターカタログ用語集」(<https://home.jeita.or.jp/cgi-bin/page/detail.cgi?n=873&ca=1>)を参照されたい。

### ・電子写真プリンター

定義：感光体面に静電潜像を形成させ、トナー等により現像後、普通紙等に転写、定着させる方式を用いたプリンター

(注釈1)「ページプリンター」を電子写真プリンターとして使用する場合は、「ページプリンター」は「シリアルプリンター」や「ラインプリンター」と並んで印刷動作を示す用語に位置づけられているため、印刷方式としては「電子写真プリンター」の用語を使用することとした。

### ・インクジェットプリンター

定義：インク粒子や小滴を用紙に噴射させて文字や画像等を形成する方式を用いたプリンター

### ・ドットインパクトプリンター

定義：文字や画像を複数の点（ドット）で表現し、それぞれの点に対応する印刷ヘッド内の金属製のワイヤーを、インクリボンの上から媒体に対して打撃することで印字する方式を用いたプリンター

### ・感熱・熱転写プリンター

定義：記録用紙の感熱媒体に熱を与えることにより化学反応を与えて可視像を形成する方式、または記録用紙に接触させたインクリボンあるいはインクシートに熱を与えることによりインクを用紙に転写する方式を用いたプリンター

(注釈2)「プリンター」は、出力機器という意味と、複合機あるいは「MFP (Multi Function Printer)」に対する単機能機の意味で使用される場合がある。本書では、特に断りがない場合は「出力機器」という意味で使用する。特に、単機能機に限定する場合は、「単機能機」あるいは「SFP (Single Function Printer)」と呼称する。